

一軍に定着できるよう頑張ります!

プロ野球ドラフト会議で広島東洋カープから1位指名を受けた今村猛投手(清峰高校3年、小佐々町在住)が、12月24日に市役所を訪れ、朝長市長に入団報告をしました。

市長は「入団おめでとう。カープは城島健司選手(阪神タイガース)と同じセ・リーグだから、二人が対決する日を楽しみにしています。日本を代表する選手になるよう頑張ってください」と市民を代表して激励。今村投手は「城島選手は小さいときから憧れの選手です。対決できるよう、まずは一軍に定着することを目標にして頑張ります」と来シーズンへの意気込みを語り、「古川秀一投手(清峰高校の先輩でオリックス・パファローズに入団)と二人でプロ野球界を盛り上げていきたいと思えます」と抱負を述べました。

今村投手といえば、中学2年時の野球教室で城島選手と対戦し、テッドボールを当てた(写真下)エピソードが有名。当時からプロのスカウトが目にするほどの逸材で、剛速球を武器にしていた今村投手に、そのときの気持ちを尋ねてみると「しまったという感じでした」と一言。「それ以来一度も会っていないので、会う機会があれば、そのときの話をしてみたいです」と笑顔で話しました。

今村投手は2月から始まるカープ沖縄キャンプに参加予定で、いよいよプロ野球人としての第一歩を踏み出します。市民の皆さんの応援をよろしくお願いいたします。



市役所を訪れた今村投手(左下、右)とサイン入りボール(左上)。



憧れの城島選手にテッドボールを当ててしまった今村投手(写真右)。平成18年1月15日「城島健司少年野球教室」佐世保野球場

市長日記

年中夢求

「年中無休」という言葉は一般に広く使われていますが、同音異義語の「年中夢求」という言葉を初めて聞き、新鮮な驚きと感動を覚えました。

この言葉を聞いたのは市役所の職員活動発表会の席上でのこと。「わたしの行動理念は年中夢求。夢をかたちにすることを実践しています」という発表でしたが、常に夢を追い続け、結果を出す努力を続けている姿に強い感銘を受けました。

この職員が所属している職場では、国民健康保険税の収納率が国の基準に達しないため、交付金が減額(近年では約一億円)され、それがその制度発足以降二十年以上も続いていることが課題になっていました。そこで職員は「年中夢求」の精神を職場職員と共有し、減額されない率まで収納率を向上させることを目標に設定。全員が一丸となって次々と新しいことに取り組み、数年かけてその目標

を達成してくれました。またその職員は「子どもたちに強くなってもらいたい」という夢を実現させるため、職場以外でも、野生的な共同生活を通して心身を鍛える「せちばる原始村」という催しをボランティアで二十数年間も開催されるなど、何事にも全力投球で臨まれており、その常に前向きな姿勢と行動力は市職員のみならず、多くの皆さんに元気と活力を与えています。

夢は求めるからこそ実現されます。まちづくりも、市民の皆さん一人一人が佐世保の未来のことを思っているからこそ、理想のまちに近づいていくのだと思います。これからも市民の皆さんと共に夢を持ち、「明るく、豊かで、住みよい自分たちのまちづくり」が実現できるよう「年中夢求」で努力を続けていきたいと思えます。

佐世保市長 朝長 則男

歴史散歩



第535回

山門支える棟持神(元町)

佐世保の歴史と歩みを共にしてきた元町の浄土真宗教法寺の山門は、昭和二(一九二七)年の竣工以来八十二年の風雪をにじませて立っています。巨木を使った四本の脚柱が棟木と交わる四隅に、見事な彫像の棟持神がいます。波濤と海鳥を刻した台座にどっしりと座り、肩を盛り上げて棟木を支える半裸の姿は、かなりの名工の作のようです。

教法寺第十五代の和田智綱住職に山門を建設した棟梁をお尋ねしましたが不明で「佐賀市高木町の願正寺の山門は同じ棟梁の作だと聞いている」とのことでした。そこで、願正寺を訪れ、先代の第十三代・熊谷勝住職(七十八歳)に尋ねましたが、やはり不明でした。浄土真宗願正寺は、関が原の合戦



後、藩の存亡に直面した鍋島勝茂が、西本願寺の僧に徳川家康への取りなしを懇願、その奔走で事なきを得たお礼に元禄十五(一七〇二)年に開山しました。山門は大正年間(一九一二)に建てられ、それまでは「山門の無い寺」と戯れ歌にまでなっていました。ただ、教法寺のよきな棟持神はありません。神聖な寺域を護る結界でもある山門は、魔物や外敵を防ぐという意味から、木鼻などに龍や鳳凰、獅子象などが彫られます。天平時代に建てられ、ことし建立二二五〇年を迎えて解体修理を終えた奈良の唐招提寺では、欄間を支える魔除けの隅鬼が国宝に指定されています。いかめしい表情の中にも、なにやら微笑を誘われる教法寺の棟持神は、その威力をもって昭和二十年六月二十九日のアメリカ軍の空襲からも山門を護り通しました。名も知れぬ生みの親である棟梁の心願は、脈々と棟持神の面魂に生きています。

筒井隆義



SASEBO

編集後記

甲子園のマウンドでは「冷静沈着」「ポーカフェイス」という印象が強かった清峰高校の今村投手。昨年12月、表敬訪問で来庁された際には、やさしい笑顔のをのぞかせ、取材対応にも一生懸命で、「誠実な好青年」という印象を受けました。そんな今村投手ですが「目標にしている選手は?」の問いにはいつも「いません」ときっぱり答えます。これまでの練習量や実績からくる自信なのか、自分の力を信じたいという意志の表れなのかは定かではありませんが、その言葉を発するときには常に強い気持ちを感じられます。今後プロ野球選手として生き残っていくためには、そうした気持ちを持ち続けることが大切だと思います。これから独自の「今村スタイル」を確立し、プロ野球界に旋風を巻き起こしてくれることを期待しています。(T)

元気な朝ごはんレシピ ココットサンド



●1人分の栄養価
熱量305kcal、たんぱく質9.8g
脂質13.1g、塩分1.8g

- 考えていただいた人 榎本康太郎さん(権常寺町)
- ワンポイント 野菜は多過ぎるとまとまりにくいので、少なめでOK。朝食で炭水化物、ビタミン、たんぱく質が摂取できます。

- 材料・4人分
- 食パン 4枚
 - マヨネーズ 30g
 - ケチャップ 50g
 - 卵 2個
 - タマネギ 1/4個(30g)
 - ニンジン 1/3本(30g)
 - キャベツ 80g
 - 油 小さじ2
 - 塩・こしょう 適量

- 作り方
- ①食パンは軽くトーストして焼き色を付け、②を合わせたソースを塗る。
 - ②野菜は5mm幅に切り、フライパンに油を入れていため、塩・こしょうで味付けする。
 - ③フライパンに、②を2等分してドーナツ状に置き、それぞれの中央に卵を1個ずつ落とす。水(湯)少々を入れてふたをし、中火で蒸し焼きにし、卵に火が通ったら裏返して焼き色を付ける。
 - ④焼きあがった③を①に挟み、切り分ける。